

評価項目	評価指標	結果の考察・分析及び改善対策	自己評価	関係者評価	学校関係者評価コメント	
1 学力向上		具体的手立て				
	(1) 基礎・基本の確かな定着	主体的・対話的で深い学び、複式指導の研究	複式授業を解消するために、3名の担任、教頭で教科の分担をし、できるだけ単式授業ができるようにして細やかな指導を行ってきた。理解が不十分な学習内容がある場合は校長が個別指導を行った。ドリルやタブレットを活用し多くの問題に取り組ませることで一人一人の児童に応じた指導を行うことができた。相互授業参観を通して授業改善を図ってきた。	3.16	3.35	<ul style="list-style-type: none"> ○ 複式指導の大変さをうかがっている。管理職が授業を行う教育体制は評価できる。児童それぞれの能力に応じた指導ができています。 ○ 児童アンケートの肯定的な評価から、授業の創意工夫が盛り込まれていると思われるが、保護者の評価との乖離が気になる。 ○ 先生方の努力が学力テストの結果に結びつかなかったことは残念である。
		「中間学力調査の平均点」市平均以上	1, 2, 3年生は全教科において市の平均点を上回ることができた。4年生の算数、5, 6年生は全教科において市の平均点を下回る結果となった。この結果を分析し、年度末に向けて授業や学力向上の時間（あおしおタイム、毎週金曜日13:55～14:15）の中で定着を図っていく。基礎・基本の問題の定着の徹底と授業中に習熟をさせる時間の確保を行う。	2	2.12	<ul style="list-style-type: none"> ○ 低学年のがんばりがよかった。高学年の学力向上の改善策が必要である。 ○ あおしおタイムの成果を期待する。 ○ 分析結果を基にした対処方向性は間違っていないが、毎年「授業等で定着を図る」との記述が続いている。経験の継続性蓄積が一過性のものに見える。少なくとも前年度と同じ轍を踏まない工夫が必要である。
		読書量調査の実施 毎月4冊以上の読書	1年生から4年生までは、目標の毎月4冊を達成できた。高学年の結果は3.6冊であった。高学年の読書量と読書の質を高めるために国語科の授業の授業との関連を図り様々な本に親しませていく。個人差もあるので今後も家庭との連携を図りながら進めていく。	3	2.95	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1～4年生の目標達成は素晴らしい。 ○ 国語の読書は、どの教科でも共通の読解力を身に付けるために大切である。 ○ スポーツクラブ、ゲーム等の影響があるのかもしれない。家庭での読書の習慣づけ等保護者の意識向上を図り、短時間でも読書の時間をつくるとよい。
(2) 学ぶ意欲の育成	立腰の徹底	児童、保護者ともに半分が学習の時の姿勢が悪いと答えている。掲示物等を使い指導を行ってきたが、徹底できていない。今後は立腰の意義や効果についても児童に伝え、児童自ら姿勢について考えられるように指導を続けていく。	2.5	2.12	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業参観の際、背筋が伸びている様子ではなく、目が近かったり、鉛筆の握り方が違っていたりすることを感じる。 ○ 姿勢の悪さは目にも影響する。その都度注意して修正・改善の必要がある。 ○ 立腰の需要の意義や効果を見せることが大事である。学ぶ意義が理解できると子どもたちの学ぶ姿勢、立腰の大切さを理解できると思われる。 	
	家庭学習の定着	各学年とも担任が工夫して取り組ませた。1年生も、76%の保護者が家庭学習が定着したと答えている。高学年の数名が、家庭で学習する習慣がまだ身に付いていない実態があるので、指導を続けている。	3.16	3.08	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高学年は中学校へ向けての自覚をもって学習に取り組んでほしい。 ○ 今後も家庭と連携しながら継続した指導が必要である。 	
	新聞等メディアへの積極的投稿	新聞に作文を積極的に投稿することで表現力の向上や書く力への意欲付けを行ってきた。1月末現在90作品投稿中28作品が掲載されている。	3	3.75	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新聞等の作文掲載が楽しみである。学校、家庭、遊び等子どもたちが感じたことが伝わり、子どもたちの文章力・表現力があることを感じる。 ○ 自分の意見をまとめ発表する力は社会人になって大事なことである。 	

評価項目	評価指標	具体的手立て	現状（達成状況及び対策）	自己評価	関係者評価	学校関係者評価コメント
2 心の教育	(1) 望ましい人間関係の育成	いじめアンケートと教育相談の実施	毎月、「悩みアンケート」を実施し、児童の悩み、いじめの早期発見に努めた。アンケートの内容について全職員で共有し、些細なこともいじめと認知して対応を協議し、児童が安心して生活ができる体制をとってきた。全児童に対して年間3回の教育相談を行い、担任と児童が話せる時間を設け、悩みの解決に力を入れてきた。それぞれの悩みについては、3か月見守り解消されていることを見届けている。	3.16	3.35	<ul style="list-style-type: none"> ○ 悩みアンケートが効果的である。先生方の「いじめを許さない」心意気が感じられる。3か月の見守りを含めこれらの施策を継続してほしい。 ○ いじめ問題は、早期発見・対応が全てであり、今後もこまめな目配り気配りで発生阻止をお願いしたい。 ○ 保護者、児童のアンケート結果と先生方の分析との差がある。
		あいさつ、言語環境の整備	友達の名前をあだ名で呼んだり呼び捨てにしたりする児童が多い傾向がある。昼休みに遊びに夢中に担っているときや教師が見ていないところでの言葉遣いについて乱暴になっているときがある。今後も繰り返し徹底して言葉遣いについては指導していく必要がある。	2	2.25	<ul style="list-style-type: none"> ○ 朝の交通安全街頭指導の際、元気のよいあいさつを受け、気持ちが良い。 ○ あだ名、呼び捨てについては、許されることもある。いじめと思われる事象が見極めて指導をしてほしい。子どもたちにとっかかりとした言葉遣いをうえつけたい。 ○ 昨年度より数値が低い項目がある。注意ばかりでなく、褒めて伸ばすことも必要である。
		道徳の授業の充実	授業の中で、テーマに沿って、考え議論させることに重点をおき毎週1時間、計画的に授業を行った。ワークシートに自分の考えを書かせ、発表することを続けることで多様な考え方に触れ自分の生活を見つめなおす時間となっている。また、全学年授業参観で保護者に観ていただくことにより、保護者への啓発も行っている。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業参観では、いろいろ自分の意見を発表している様子がうかがえた。 ○ 一人一人が授業に参加していると思える環境作りは、授業がおもしろくなるよい取組である。 ○ 常識そのものが時代とともに変化していくが、変わらないもの変えてはいけないものもある。道徳の授業は難しいものであるが、多様な考えにふれるため大切であり、保護者への啓発も含め、根気強く指導をお願いしたい。
	(2) 校内の美化や整理整頓	無言清掃の徹底	1学期の清掃の取組を反省し、2学期から清掃の分担を変えたことで、少ない人数で校内美化に取り組むことができた。保護者アンケートでも9割が「校内の清掃が行き届いている」と答えている。無言で清掃しているかについては8割の児童ができていますと答えているが徹底されるまで今後も続けていく。	2.5	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校はいつもきれいに清掃されている。 ○ 無言清掃の徹底が重要であれば、アンケート項目を整理することで浮き彫りになる部分が出てくると思われる。
		トイレのスリッパ並べの徹底	保護者へのアンケートでは、全員が「校内が整理整頓されている」と答えている。トイレのスリッパについては校長が毎日、点検を行い、児童に知らせることで、きれいに並んでいる日が多い。児童も94%が「使ったスリッパを並べた」と答え、意識していることがうかがえる。	3	3.63	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校を訪問する際、気にかけているが、いつもきれいである。 ○ 次に使用する人の使いやすさも、大事なことである。

評価項目	評価指標	具体的手立て	現状（達成状況及び対策）	自己評価	関係者評価	学校関係者評価コメント
3 体力の向上	(1) 体力作りの推進	新体力テストで県平均以上60項目	本年度は54項目において県の平均を上回ったが目標は達成できていない。特に「長座体前屈」「反復横跳び」「ボール投げ」の成績は良好であった。今後、分析をもとに学年ごとの児童の実態に応じた体力向上を体育の時間を中心に行っているところである。	3	2.95	<ul style="list-style-type: none"> ○ 達成できなかった原因に、コロナ禍で外で遊ぶ機会が少ないこと、普段から運動する機会が減ったことも挙げられる。 ○ 男子の握力、立ち幅跳び、女子の上体起こしが不得手のようである。体育の時間や遊び時間の取組を考える必要がある。
	(2) 望ましい生活習慣と感染予防	マスク着用、手洗い等の感染予防の徹底	マスクを忘れる児童は、ほとんどいないが、一部の児童が、話をする時につけるのを忘れることがあったので、指導を続けてきた。手洗いの励行も続けてきたが、ハンカチ、ティッシュなどを携行していない児童も多い。今後も徹底できまで、学級で指導を行う。	2.25	2.92	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭と連携し、マスクを含めハンカチ、ティッシュの指導を徹底してほしい。 ○ コロナの取り扱いが変わってくるが、全員そろって対策することが大切である。
		虫歯治療完治率80%以上	虫歯完治・治療率は現在87.5%である。今後、治療予定の児童もいる。保護者への啓発が遅かったため、早期の個別指導呼びかけが必要だった。	3	3.08	<ul style="list-style-type: none"> ○ 病院が少なくなり保護者の負担も大きくなっているが、さらなる保護者への啓発をお願いしたい。
	(3) 食育の充実	早寝・早起き・朝ごはんの推進（児童の意識調査95%以上）	平日は守ることができているが、金曜日の夜から土日にかけて夜更かしをする児童が見られる。習い事で遅くなったりゲームに夢中になる傾向があるので、土日の過ごし方について児童に指導を行うとともに、家庭への啓発も行っていく必要がある。	3	2.96	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活の基盤なので、保護者への啓発の継続をお願いしたい。
		弁当の日の実施（調理関わり率95%以上）	本年度は66%で目標達成はできなかったが昨年より調理に関わった児童は増えている。早起きができないために調理に参加することができなかった児童も多い。全学年、栄養教諭を招いて栄養についての授業を行ってきた。今後も発達段階に応じて、お弁当作りに関わることができるように目標を設定するなどの手立てを講じていく。	3	2.92	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童のみならず保護者の意識向上が必要である。 ○ 弁当の日の関わり方や、弁当の日だけでなく普段からの関わりも考えていく必要がある。